

薬理学 AB・CD

【前期】月 1・木 1 【後期】火 2・金 2

吉本勝彦・水澤典子

ここで紹介された資料は**蔵本 2 階授業サポートナビコーナーにあります**ので、どうぞご利用ください。

(同じ本が 3 冊以上ある場合は★の場所にもありますので、そちらもご覧ください)

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために、これらの図書を読むことから始めましょう

□ **歯科薬理学 / 石田甫・大浦清・上崎善規・土肥敏博 編 医歯薬出版 2005**

→ 1971 年以來の歴史を有する歯科薬理学の参考書（口腔領域の薬理学を含む）。

★【蔵本 2 階生命科学閲覧室 497.2||Sh】

□ **現代歯科薬理学 第 6 版 / 大谷啓一 監著 / 鈴木邦明・戸苅彰史・青木和広・兼松隆・筑波隆幸 編 2018**

→ 1979 年以來の歴史を有する歯科薬理学の参考書（口腔領域の薬理学を含む）。

【497.2||Ge】

□ **NEW 薬理学 改訂第 7 版 / 田中 千賀子・加藤 隆一・成宮 周 南江堂 2017**

→ 代表的な薬理学の参考書。薬物の作用機序、情報伝達機構、薬理ゲノミクスなどの解説などが充実。

★【蔵本 2 階生命科学閲覧室 491.5||Ne】

□ **イラストレイテッド薬理学（リップンコット）/ Richard Finkel, Thomas A. Panavelil [著]/青山晃治 [ほか訳] 丸善 2016**

→ イラストを用いて分かりやすく解説。章始めにあるサマリーが便利。各章の最後には問題集を掲載。

【491.5||Ir】

□ **ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 原書 3 版 / David E Golan et al. / 渡邊裕司（監修，翻訳）丸善出版 2015**

→ ハーバード大学医学部の学生と教官が共同で編集した本。それぞれの病態のメカニズムを生理学、生化学、病態生理学の観点から解説し、それに対する薬物の分子機序が詳細に記してある。

【491.5||Ri】

□ **ラング・デール薬理学 原書 8 版/ Rang HP, Ritter JM, Flower RJ, Henderson G 丸善出版 2018**

→ 英国で評価の高い教科書。内容およびカラー図表が豊富。引用文献・参考文献に簡単な解説が付いている。

【491.5||Ra】

□ **カッツング薬理学 / Bertram G. Katzung 丸善 2009**

→ 薬理学のバイブル的な参考書。薬理作用、作用機序等が詳しい。「日本で入手可能な薬剤リスト」が加えられ、臨床分野の学習にも有益。

【491.5||Ka】

□ **カッツング薬理学 エッセンシャル/ Anthony J. Trevor, Bertram G. Katzung, Susan B. Masters 丸善 2012**

→ 各章末にある演習問題は、歯学生には少し難易度が高いが、知識の整理に有益。

【491.5||Ka】

□ **臨床薬理学 第 4 版 / 編集：日本臨床薬理学会 医学書院 2017**

→ 日本臨床薬理学会編集による臨床薬理・治療学の教科書。

【491.5||Ri】

□ **グッドマン・ギルマン薬理書（上）（下）—薬物治療の基礎と臨床 第 12 版 / Louis S. Goodman Alfred Gilman 広川書店 2013**

→ 世界でもっとも権威ある薬理書で、薬理学のバイブル。辞書として活用できる。

【491.5||Go||1,2】

- **薬がみえる vol.1~3 /編集：医療情報科学研究所 メディックメディア 2014~2017**
→ 「病気がみえる」シリーズの薬理学・薬物治療学版。薬と病気をつないで理解できる。チーム医療を担う医療人共通のテキスト。
【499.1||Ku||1-3】
- **カラー図解 これならわかる薬理学 第2版 /訳 佐藤俊明 メディカルサイエンスインターナショナル 2012**
→ 一項目は見開き2頁で完結し、左右に図と解説文を配した構成で理解しやすい。
【491.5||Ko】
- **標準薬理学 第7版 /今井正・宮本英七 監修/飯野正光・鈴木秀典 編 医学書院 2015**
→ 第II編の「情報に関わる分子」や「情報伝達機構」の部分が詳しい。
【491.5||Hy】
- **FLASH薬理学 /丸山敬 羊土社 2018**
→ 上手にまとめられており、最新の情報も記載されている。図書館購入の電子書籍版を利用できる。
【<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000064873?6>】 【491.5||Ma】
- **今日の治療薬 /浦部晶夫・島田和幸・川合眞一 [共] 編著 南江堂 2019**
→ 臨床現場で用いられている薬物が新薬を含めて記載。添付文書外情報が充実。後発薬品についての情報がある
【499.1||Ko||'19】

DVD

授業のテーマに関連した視聴覚資料です

- **目で見る薬理学入門 / 医学映像教育センター**
【491.5||Me||1-12】

Web

授業のテーマに関連したデータベースやサイトです

- **薬理学電子教科書（上）（下）**
【<http://park12.wakwak.com/~pharma1/textbook/Pharm-Textbook.html>】
【<http://park12.wakwak.com/~pharma1/textbook2/Pharm-Textbook2.html>】
→ 大阪大学の薬理学担当者による執筆。イラストがわかりやすい。立体分子構造が示されている。PDF ファイルも利用可能。
- **日本薬学会・薬学用語解説** 【<http://www.pharm.or.jp/dictionary/wiki.cgi>】
→ 薬学・薬理学の用語の解説がある。
- **痛みと鎮痛の基礎知識** 【<http://www.shiga-med.ac.jp/~koyama/analgesia/index.html>】
→ 基礎情報が詳しい。本ウェブページを土台に「増補改定新版 痛みと鎮痛の基礎知識/ 小山なつ 技術評論社 2016」が出版されている。
- **血液凝固検査入門** 【<http://www.3nai.jp/weblog/entry/28676.html>】
→ 金沢大学血液内科・呼吸器内科により作成されている。イラストがわかりやすい。
- **メルクマニュアル日本語版** 【<http://merckmanual.jp/mmpej/index.html>】
→ 世界で最も信頼されている医学書の一つ。各疾患の病因、病態生理、症状と徴候、診断、治療などが記載されている。